Rotary

大網ロータリークラブ

Club Weekly Bulletin

■クラブ創立：2000 年 1 月 13 日
■例会日：水曜日（12：30～13：30）
■例会場：中部コミュニティセンター
TEL 0475-73-3337 FAX 0475-73-4360
■事務所：〒299-3251
大網白里市大網 450-6　ユアサビル 2 階
TEL 0475-70-0200 FAX 0475-70-0222
■会 長：石田 英世　幹 事：高野 祐二
■広報・公共イメージ向上委員会
委員長　大越 将司・会報担当　石田 英世

2024 年 7 月 24 日(水)
第 26 巻 第　4 号

通巻第１０７８号

http://www.oamirotary.com
E-mail：rc@oamirotary.com

ロータリーのマジック

本日の例会

点　鐘　会長　石田 英世
ソ ン グ　手に手つないで
会長挨拶　会長　石田 英世
幹事報告　幹事　高野 祐二
プログラム
大網白里市出前講座　社会福祉課
「民生委員・児童委員について」

ニコニコ BOX

なし

例会日	7 月 10 日	6 月 26 日
会員数	30	31
出　席	16	19
欠　席	14	12
M　U	0	0
免　除	6	8
出席率	73%	87%

会長挨拶

石田　英世　会長

　みなさん　こんにちは
今日は「排他的経済水域（Exclusive Economic Zone：ＥＥＺ）」についてお話したいと思います。
「沿岸国が、その範囲内において、天然資源の探査・開発などを含めた経済的活動についての主権的権利と、海洋の科学的調査、海洋環境の保護・保全等についての管轄権を有する水域で、領海基線（海面が一番低い時に陸地と水面の境界となる線）から 200 海里（約 370 km）を越えない範囲内で設定することができるもの」として国連海洋法条約(「海洋法に関する国際連合条約」)によって規定されています。
排他的経済水域を持つ国は、その海域にある生物や鉱物など様々な資源を調査、開発、保存する権利を持つとともに、これらの資源や環境を適切に管理する義務を担います。
日本の陸地面積は約 38 万㎢ですが、領海と排他的経済水域を合わせた面積は約 447 万㎢に及び、これは国土の約 12 倍、世界で 6 番目の広さとなります。
海に囲まれ、国土の面積も狭隘な我が国にとって、排他的経済水域等は、貴重な海洋エネルギー・鉱物資源の開発及び水産資源の利用を排他的に行うことが認められている貴重な場です。
最近　日本の排他的経済水域（Exclusive Economic Zone：ＥＥＺ）内の小笠原諸島・南鳥島（東京都）沖にある深海の鉱床に、レアメタル（希少金属）を豊富に含むマンガン団塊が 2 億トン以上密集していることが、東京大学や日本財団などの探査で判明したと報道されました。世界的に供給不足が心配されるコバルトは国内消費量の約７５年分、ニッケルは約１１年分と推計されています。電気自動車の電池に必要なコバルト、ニッケルなどのレアメタルは、産出や製錬がアフリカや中国など一部の国に偏っている現在、南鳥島沖は、マンガン団塊のほかにもレアメタルを含む鉱物の塊「コバルトリッチクラスト」、ハイテク製品に広く使われる材料を含む「レアアース泥」が確認されており、世界でも指折りの鉱物資源の宝庫だそうです。

ところで「排他的」とは何か辞書を引くと、「他人をしりぞける傾向があるさま」という意味で、仲間はずれにすることや仲間外れにしがちなことを表します。個人や集団が、他人を積極的に仲間として受け入れずしりぞけるようなさまを指します。
なぜ EEZ の話をしようと思ったのは、この Exclusive「排他的」がきっかけでした。

ロータリーでは「多様性、公平さ、インクルージョンに関する国際ロータリーの方針」が採択され、これは、ロータリーがインクルージョンを重視しているという力強いメッセージとなっています。インクルージョンすなわち Inclusive「受け入れ」です。
Exclusive と Inclusive　正反対の言葉ですが、必ずしも対立を意味しているとはおもいません。

近隣には現在の日本と必ずしも友好的とは言えない国もあります。
日本国民として EEZ の権利はしっかりと主張し、これらの資源や環境を適切に管理する義務を履行し、ロータリアンとしては互いの違いを理解して世界中の人たちと協調していければ「国際ロータリーの方針」にも合致するのではないでしょうか。

会員卓話

神道研究家　木村　和彦　様

「古事記」に学ぶ伝統的な日本のこころ

本日は、『古事記』を通じて、禊（みぞぎ）、祓（はらえ）のお話をします。

『古事記』とは

六世紀の終わり頃、戦乱が続く東アジアで、日本のこころを伝えるため、当時の日本の言葉で書かれた物語が『古事記』です。

先人たちがおまつりや儀礼で伝えてきた「こころ」は、『古事記』を通じて確かめることができます。

天地初発（てんちしょはつ）

天地（あめつち）の初めて發けし時、高天の原（たかまのはら）に成れる神の名は、天之御中主神。次に高御産巣日神（たかみむすひのかみ）。次に神産巣日神（かむむすひのかみ）。この三柱（みはしら）の神は、みな独神と成りまして、身（みみ）を隠したまひき。

『古事記』の冒頭は、伝統的な日本の世界観を示しています。
日本では、天地（あめつち）、高天原（たかまのはら）を物実（ものざね）として神が生まれたと信じられてきました。

神が身を隠したことの意味は、神が死んだことではありません。神の姿は見えなくなったけれども、永遠に存在し続けるようになったとされています。

つまり、モノが存在を始めた永遠の過去から神は在り、モノが存在しなくなる永遠の未来まで神は存在し続けることを意味します。

第一回では聖書や仏教とは異なった世界観だというお話をしました。

修理固成の詔

ここに天つ神諸の命もちて、伊邪那岐命（いざなぎのみこと）、伊邪那美命（いざなみのみこと）、二柱の神に、「この漂へる國を修め理（つく）り固め成せ。」と詔りて、天の沼矛を賜ひて、言依さしたまひき。

天つ神は、天沼矛（あめのぬぼこ）というモノに「国を作り整え、固めて完成させよ」という御言（みこと）、思いを込めて、伊邪那岐命（いざなぎのみこと）、伊邪那美命（いざなみのみこと）、に渡しました。伊邪那岐命（いざなぎのみこと）、伊邪那美命（いざなみのみこと）は、その思いを受け取って国作りりを始めます。

はじめ、慎みを失って国産みに失敗しますが、占いで天つ神の思いを確認し、慎みをもってやり直して日本列島を産むことができました。

黄泉国訪問

伊邪那岐命（いざなぎのみこと）と伊邪那美命（いざなみのみこと）は日本列島の島々を産んだあと、風邪の神、海の神、山の神、野の神、川の神などを産みました。

最後に火の神を産むと、伊邪那美命（いざなみのみこと）は火傷を負い、ついに亡くなって黄泉国（よみのくに）に行きます。伊邪那岐命（いざなぎのみこと）は、黄泉国の伊邪那美命（いざなみのみこと）に会いに行きます。そして、見るなと言われたのに伊邪那美命（いざなみのみこと）の腐乱した遺体を見て、恐ろしくなって逃げだし、怒った伊邪那美命（いざなみのみこと）に追われ、黄泉国から逃げ帰ってきます。

あの世とこの世

前回、あの世、幽世（かくりよ）は夜の庭に、この世、現世（うつしよ）は夜の明るい部屋の中にたとえられとお話しました。この世からあの世は見えないけれども、あの世からはこの世は良く見えるのです。

伊邪那岐命の禊ぎ祓え

ここをもちて伊邪那岐大神詔りたまひしく、「吾はいなしこめしこめき穢き國に到りてありけり。故、吾は御身の禊為む。」とのりたまひて、筑紫の日向の橘の小門の阿波岐原に到りまして、禊ぎ祓ひたまひき。

さて、伊邪那岐命は、黄泉国との境、出雲の伊賦夜坂（いふやざか）から、阿波岐原（あわきはら）に移動します。
現在の宮崎市阿波岐原町（あわきがはらちょう）、シーガイア近くの江田神社あたりとされています。
穢れた黄泉国、からこの世に帰って来た伊邪那岐命は、「身体の穢れを洗い清めよう」と言います。体に付いた穢れを取り除くことを、禊や祓、二つ合わせて禊祓（みそぎはらえ）と言います。禊祓の始まりは、伊邪那岐命はが黄泉国から帰って来た時だとされています。

モノを手放す

故、投げ棄つる御杖に成れる神の名は、衝立船戸神。次に投げ棄つる御帯に成れる神の名は、道之長乳歯神。次に投げ棄つる御嚢に成れる神の名は、時量師神。次に投げ棄つる御衣に成れる神の名は、和豆良比能宇斯能神。次に投げ棄つる御褌に成れる神の名は、道俣神。次に投げ棄つる御冠に成れる神の名は、飽咋之宇斯能神。次に投げ棄つる左の御手の手纏に成れる神の名は、奥疎神。次に奥津那芸佐毘古神。次に奥津甲斐辨羅神。次に投げ棄つる右の御手の手纏に成れる神の名は、邊疎神。次に邊津那芸佐毘古神。次に邊津甲斐辨羅神。（中略）

伊邪那岐命は阿波岐原に着くと、身に付けていたものを投げ捨てました。投げ捨てた杖、帯、袋、ハカマ、冠、左右の腕に付けた腕輪から、次々に神が生まれました。

海水ですすぐ

　ここに詔りたまはく、「上つ瀬は瀬速し、下つ瀬は瀬弱し」とのりたまひて、初めて中つ瀬に堕り潜きて滌ぎたまふ時、成りませる神の名は、八十禍津日神。次に大禍津日神。この二神は、その穢繁国に到りし時の汚垢によりて成れる神なり。次にその禍を直さむとして、成れる神の名は、神直毘神。次に大直毘神。次に伊豆能賣神。（中略）
　次に「上の流れは速く、下の流れは緩い」と言って、中ほどのところで身をすすぎます。
　穢れから八十禍津日神。大禍津日神が産まれます。「禍（まが）とは「曲がる」という意味で、禍を直すために、新たに神を産みます。」神直毘神、大直毘神、伊豆能賣神です。

三貴子の誕生

ここに左の御目を洗ひたまふ時に、成れる神の名は、天照大御神。次に右の御目を洗ひたまふ時に成れる、神の名は、月讀命。次に御鼻を洗ひたまふ時に、成れる神の名は、建速須佐之男命。（中略）
　この時伊邪那岐命は、大く歓喜びて詔りたまひしく、「吾は子を生み生みて、生みの終に、三はしらの貴き子を得つ。」とのりたまひて、すなはち御頸珠の玉の緒ももゆらに取りゆらかして、天照大御神に賜ひて詔りたまひしく、「汝命は高天の原を知らせ」と、事依さして賜ひき。故、その御頸珠の名を、御倉板擧之神と謂ふ。次に月讀命に詔りたまひしく、「汝命は夜の食國を知らせ。」と事依さしき。次に建速須佐之男命に詔りたまひしく、「汝命は海原を知らせ」と事依さしき。
禊の最後、伊邪那岐命が最も浄められた状態で目や鼻をすすぐと、天照大御神、月読命、須佐之男命の貴い神々が生まれました。
伊邪那岐命は立派な神が生まれたことを喜びました。天照大御神には高天原を、月読命は夜之食国を、須佐之男命には海原を任せました。
天照大御神と須佐之男命の物語は、現代のおまつりにも通じています。
詳しいお話は、次回以降にいたします。

禊ぎ祓えの原理

古事記の冒頭で、モノに言葉、思いを込める場面が出ました。修理固成の詔で、天つ神が天沼矛に国作りの思いを宿らせました。神や人も、言葉や思いを受けとります。

　例えば、伊邪那岐命、伊邪那美命の国生みでは、天つ神の言葉から心が離れ失敗しましたが、占いをして天つ神と自分たちの思いを一つにすることで、国生みに成功します。

これとは逆に、悪い何かが付いて取り除こうとしたのが、黄泉国の穢れです。黄泉国の穢れが付いた伊邪那岐命（いざなぎのみこと）は、身に付けたモノを手放し、体を海水ですすいだのです。

原罪・罪業

ところで、くっついた罪穢れから、禍事（まがごと）、災厄が生れるから、原因の罪穢れを取り除こうという考えは、他の文化には見られません。

キリスト教で罪と言えば、アダムが神の言いつけに背いた罪です。「原罪」と呼ばれ、全ての人々が生まれながらに背負う罪だとされます。原罪から救われるには神の慈悲によるしかありません。ですから、いかに神の救済を得るかが、キリスト教のテーマです。

もともとの仏教では、現世の悪い行いは来世の苦しみの原因とされます。現世の苦しみの原因は前世にあるので、現世では原因を取り除くことはできません。現世で救われるには、辛い修行を乗り越えて悟りを開き解説するしかないとされました。日本の仏教では、即身成仏ができる、つまり、この世で救われるとしています。

祓詞

現在、お祓いで用いる祓詞は、様々な祝詞（のりと）を研究し、明治時代に整えられたものです。
掛けまくも畏き大神、筑紫の日向の橘小戸の阿波岐原に御禊祓へ給ひし時に生りませる祓戸の大神等、
諸の禍事、罪、穢有らむをば、祓へ給ひ清め給へと白すことを聞食せと恐み恐みも白す

神社本庁編『神社本庁例文　祝詞例文集上巻　祝詞、祓詞及び祭詞』神社新報社、昭和 31 年
旧字体・万葉仮名を、新字体・ひらがなに改め、句読点とふりがなを付した。

現代語訳は次のようになります。
（言葉）を掛けるのも畏れおおい伊邪那岐
大神が、筑紫の日向の橘の小戸の阿波岐原で禊をして（黄泉国の穢れを）お祓いなさったときに生まれた祓戸の大神等に（恐れながら恐れながら申し上げます。かくかくしかじかのためにご神前でおまつりをしようと集まっている人や物に）いろいろな悪い事、（悪い事を引き起こす）罪や穢れがあるならば、取り除いてくださいますように、清めてくださいますように、と申し上げますことを、お聞きになってくださいませと、恐れながら恐れながら申し上げます。

現代の禊ぎ祓え

日本の伝統的な信仰では、罪穢れは知らず知らずのうちに外からやってきて人やモノに付くので、禊祓で取り除くことができる、とされています。この世で罪穢れを取り除けば、この世の悪い事も防ぐことができます。

現代でも、寒中禊などが有名ですが、海や川、池に入って罪穢れを取り除く禊は行なわれています。神社でお参りする際に手や口をすすぐのは、禊を簡略化したものです。

神社のお祓いでは、この世の悪い事が起きないよう、祓詞を申し上げ、榊の枝や木の棒に紙垂（しで）と麻を取り付けた大麻（おおぬさ）や、お湯に塩を溶かした塩湯（えんとう）を、左・右・左と振って罪穢れを取り除きます。

まとめ

祓詞にもあるように、穢や祓は『古事記』の伊邪那岐命の穢から始まったとされています。
現在も、人やモノに付いた罪・穢れを取り除き、悪い事がおきないようにとの願いを込めて、禊祓は行なわれています。

参考

小野善一郎『日本を元気にする古事記の「こころ」改訂版』
青林堂、平成 28 年
武田祐吉訳『古事記』角川文庫、昭和 31 年、青空文庫版